

令和8年度第1回大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会 議事要旨

1 日 時：令和8年7月23日（木）14：00～16：00

2 場 所：大阪歴史博物館 4階 第1研修室

3 出席者：

【委 員】栗原委員、島委員、高瀬委員、谷村委員、村田委員

【大阪市】経済戦略局 中野文化部長、平野博物館支援担当課長、水谷博物館支援担当課長代理 他

4 議 題：

（1）地方独立行政法人大阪市博物館機構の令和7事業年度自己評価について

5 議事要旨：

（1）地方独立行政法人大阪市博物館機構の令和7事業年度自己評価について

法人（博物館機構）から説明を行った後、中・小項目評価について質疑・審議が行われ、評価委員から意見の申述をいただいた。

〔主な意見〕

- ・ 地独化して6館が一緒に運営されているのだから、各館でクロスオーバーする視点も大切である。
- ・ 人流データを活用できているのは、良い取り組みである。
- ・ SDGsの観点から、来館者のダイバーシティやインクルージョンにも配慮が必要である。
- ・ 先進的な取り組みの調査・研究や海外の博物館・美術館とのネットワーク構築のために、学芸員の海外研修にも取り組むとよい。予算的に難しいのであれば、文化庁が実施している博物館職員等の海外派遣事業の活用も検討してはどうか。
- ・ 学芸員自ら SNS 等により情報発信することや、学芸員の業務内容を紹介した自然史博物館の「学芸員のおしごと」展の開催は、学芸員のモチベーション向上にもつながると思うので、良い取り組みである。
- ・ カフェやミュージアムショップ等の民間企業とのコラボは美術館の魅力向上や収入向上に繋がる。
- ・ 来館者数だけで判断するのではなく、コレクションをどう活用したかという評価も必要。リニューアルした割に来館者数が伸び悩んでいる。展示説明について、来歴などコレクションの物語があるともっと魅力が伝わると思う。
- ・ 潜在的に美術館に行きたい気持ちを持っている人たちはいると思うので、市立美術館の天空のアトラス展はそういった人たちにとって、美術館を訪れる良いきっかけになったと思う。今後、美術館に興味はあるが、訪れるきっかけがない人に対して、どのようにきっかけを与えるかが大事になってくる。

6 会議資料

- 資 料 1 令和7事業年度にかかる業務の実績に関する自己評価について
- 資 料 2 令和7事業年度の業務実績に関する中・小項目評価
- 参考資料1 令和7事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果小項目評価
- 参考資料2 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和7年度 事業報告書
- 参考資料3 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和7年度 財務諸表
- 参考資料4 地方独立行政法人大阪市博物館機構 令和7年度 決算報告書